

訪問看護医療 DX 情報活用について

少子高齢化に対して、皆様の健康増進と、連続的で高品質な医療の提供を目指すには、医療領域のデジタル化を推進し、保健や介護を含む医療情報の積極的な活用が極めて重要となります。

三木市社会福祉協議会訪問看護ステーションでは、厚生労働省が提唱している医療デジタルトランスフォーメーション(以下医療 DX)体制を積極的にすすめています。医療 DX 推進の体制により、利用者様の診断名・検査結果・処方薬等の医療情報を迅速かつ正確に共有することで訪問看護サービスの質向上につとめます。

医療 DX とは

『保健・医療・介護の各段階（疾病の発症予防、受診、診察・治療・薬剤処方、診断書等の作成、診療報酬の請求、医療介護の連携によるケア、地域医療連携、研究開発など）において発生する情報やデータを、全体最適された基盤（クラウドなど）を通して、保健・医療や介護関係者の業務やシステム、データ保存の外部化・共通化・標準化を図り、国民自身の予防を促進し、より良質な医療やケアを受けられるように、社会や生活の形を変えること』（厚生労働省）